



2012年(平成24年)

3月13日発行

Vol. 12

志摩市応援倶楽部 志摩びとの会事務局

〒517-0592

三重県志摩市阿児町鶴方 3098-22 志摩市役所 企画政策課内

TEL: 0599-44-0205 FAX: 0599-44-5252

e-mail: shimabito@city.shima.lg.jp

HP: http://www.city.shima.mie.jp/shimabito/index.cfm

～事務局通信～

「志摩びとの会ふるさと交流会」を12月23日(金)に開催し、県内外から会員のみなさまにご参加いただきまして、盛況のうちに終了いたしました。

交流会の様子は今回の会報でも掲載しております。平成24年度も交流会を行う予定です。詳細が決まり次第、会員の皆様にはご報告いたします。



また、ご好評いただいております志摩ロードパーティ、伊勢志摩ツーデーウォーク、全米女子プロゴルフ協会公式戦「ミズノクラシック～伊勢志摩～」といった各イベントは平成24年も引き続き開催されますので、会員の皆様もどうぞご参加、ご観戦ください。



ピン玉ロード
～恋人たちの契りスポット～

志摩市浜島町の海岸沿いの約1kmに、ピン玉の癒しのあかりが灯る、幻想的で情緒あふれる夜のイチ押し散策道。

日没から23時まで220個のLED使用のピン玉が宝石箱のように輝きます。



潮騒と星空のもと二人で祈り、永遠の幸福を叶えましょう。

アクセスなど詳しくは…
志摩市観光協会 (TEL:0599-46-0570) まで!

志摩びとの会
ふるさと交流会

志摩びとの会ふるさと交流会が、平成23年12月23日、伊勢志摩ロイヤルホテルで開催されました。

県内外から総勢41名が参加、志摩市の郷土料理に舌鼓を打ちながら、英虞海神太鼓や、じゃこっぺ踊りといった郷土芸能を堪能しました。



参加者みんなで“じゃこっぺ踊り”



また、伊勢海老・サザエといった志摩市の特産品が当たるお楽しみ抽選会が行われ、発表される番号に大盛り上がりでした。



★志摩市ふるさと応援寄附条例★

志摩市では、この地域に暮らす人々や他の地域に暮らしていても、絶えず「心のふるさと志摩」を想い、また志摩市の発展を願う人たちの熱き心を地域づくりに活かし、住民参加型の地方自治を進めるため、志摩市ふるさと応援寄附条例を制定しました。

★寄附金の運用目的を指定できます★

寄附金の運用方法は、寄附していただいた方ご自身により、次の7項目からご指定できます。

- (1)環境に関する事業 (2)生活・安全に関する事業
- (3)産業の振興に関する事業(4)健康・福祉に関する事業
- (5)教育・文化に関する事業 (6)まちづくりに関する事業
- (7)その他個別の指定事業

★申し込み方法★

寄附金額は1口5,000円より。申請をいただいた方に振込用紙をお送りします。詳しくは企画政策課まで

(TEL 0599-44-0205 FAX 0599-44-5252)

＜志摩いそぶえ会 きらりレシビ＞
離れていても志摩の味

◎志摩いそぶえ会…県内外のお客様を、心からもてなし、志摩の良さを一人でも多くの方に知っていただくこと、志摩町のおかみさんを中心に活動。

★バタ貝(殻扇貝)のしぐれ煮

マメ知識

バタ貝は、海の中を移動するとき口を開け閉めして“バタバタ”と泳ぐことから、殻扇貝は赤・だいたい・紫と数色の貝色から、このように呼ばれるようになったといわれています。



作り方

- ①バタ貝を湯の中で泳がすようにして身はずす。
- ②水洗いし、ざるに水切りする。
- ③だし汁、砂糖、醤油、輪切りのショウガ、酒を入れて煮立ったら、中にバタ貝を入れる。
- ④一煮立ちしたら火を止め、さめるまでつけておく。
- ⑤盛りつける前に、つけ汁に水でといた片栗粉でとろみを付けて出来上がり。

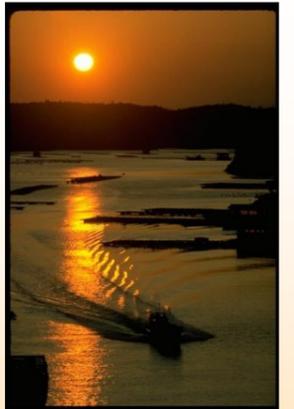
材料(4人分)

- バタ貝・・・8個
- だし汁・・・カップ1/2
- 砂糖・醤油・・・大さじ1
- ショウガ・・・1かけ
- 酒・・・大さじ2
- 片栗粉・・・少々

志摩の夕陽スポット

賢島大橋からの夕景

英虞湾に浮かぶ賢島の入り口に、あたる賢島大橋の上から望む英虞湾の夕景は、見る人の心を魅了するほどの美しさです。



イベント歳時記

日時	イベント(開催場所)
4/22(日)	志摩ロードパーティ (志摩スペイン村)
5/19(土)	伊勢志摩ツーデーウォーク
5/20(日)	(近鉄賢島駅前)
6/2(土)	伊勢えび祭(浜島町)
6/24(日)	伊雑宮御田植祭(磯部町)



MIZUNO CLASSIC

LPGA OFFICIAL TOURNAMENT

志摩市で行われる、全米女子プロゴルフ協会公式戦「ミズノクラシック～伊勢志摩～」。

上田桃子選手が感動の勝利を掴んだ昨年の大会は記憶に新しいところですが、今年も開催が決定しました!!



開催日
2012年11月2日(金)
～11月4日(日)

開催場所
近鉄賢島カンツリークラブ

全米の女神、伊勢志摩へ。

平成24年三重県観光・記者発表会 及び交流会(大阪会場)

平成24年2月13日に、三重県観光・記者発表会及び交流会が大阪で行われ、多数の関係者が集まる中、平成24年度の志摩の観光イベントをPRしました。



志摩の特産品である、サザエのつぼ焼きや、あおさ海苔・真珠貝の貝柱を使ったパスタなど、郷土料理もふるまい、「御食つ国」のアピールも大成功!
また、我々「志摩びとの会」も、メディアやエージェント関係者に対し、活動内容の周知を行いました。



志摩ちゃんも
駆け付けたよ!

志摩のパワースポット

鼻かけえびす像 (浜島町)

昔から地元の漁師が夜々密かにえびすさんの鼻をけずり取り、お守りとする風習があります。いち早く漁場に到着し、大漁が出来るように、端(ハナ)をとるとの願いが込められているからです。



鼻がかけたえびす像

南の海に向い鎮座するほのぼのとしたえびすさんは、汗をかき惜しみなく努力する者には願い事が叶うと言われています。

アクセスなど詳しくは...
志摩市観光協会 (TEL:0599-46-0570) まで!

三重県最大級のスポーツイベント!!

志摩ロードパーティ ハーフマラソン2012

2012 4.22 (sun) START

開催地 三重県・志摩市
メイン会場 志摩スペイン村



春の志摩の風景を楽しめるシーサイドを、約8,000人のランナーが走る志摩ロードパーティが今年も開催されます。
今年はゲストランナーに安田大サーカスの団長が参加します!



お問い合わせ
志摩ロードパーティ大阪事務局
TEL:06-6305-6302
(平日 9:30~17:00 第3金曜日を除く)
<http://shima.roadparty.jp/>

第2回 伊勢志摩 ツーデーウォーク

ココロとキモチはずむ「里海の道」を、みんなで歩こう!

昨年度から始まりました、伊勢志摩ツーデーウォーク。

第2回は、メイン会場を近鉄賢島駅前の志摩マリンランド前の特設会場に移して行きます。

初心者の方やお子様連れでも楽しめる6kmコースも追加され、ますます参加しやすくなったツーデーウォークで、自然たっぷりの志摩の雄大さを存分に感じてください!



とき:2012年5月19日(土)・5月20日(日)

会場:志摩マリンランド前特設会場

(近鉄賢島駅前)

申し込み・お問い合わせ
伊勢志摩ツーデーウォーク事務局
【近鉄鶴方駅1階】
TEL:0599-44-5855(平日 9:00~17:00)
<http://www.shima2daywalk.jp/>

海女さんの豆知識

第5回 海女の道具



海女が使う道具はいろいろとありますが、一番大事なものは何と言っても「磯めがね」です。昔は水泳選手が使っているような2つのレンズが付いているめがねが多く使われていましたが、現在では視野が広い1つレンズの磯めがねが主流となっています。近頃ではレンズも強化され、割れることはほとんどなく、また、近視用、遠視用などその海女に合った磯めがねがオーダーメイドで注文できるようになっています。

ほかに大切な道具としては、あわびを獲る時に使う「磯ノミ」があります。ノミは長ノミ、中ノミ、小ノミ、手ノミなどがあり、長さや大きさがそれぞれ違っています。少し前までは、志摩の各地に昔ながらの鍛冶屋があり海女さんの注文を受けてひとつひとつ手作りで作られていました。材質も、昔は鉄でしたが、今はほとんどがステンレスになっています。ステンレスはもちろん錆びにくいという特徴がありますが、誤って海底に落ちてしまったときに、鉄だと茶色の海藻と一緒に色で見つけにくくなります。その点、ステンレスですと海底でキラキラと白っぽく光っていて見つけやすいという利点があります。しかし、その分値段も高くなります。



ノミは少しどちらかに湾曲していてテコの原理を利用して、アワビを傷つけないように採ります。海女が潜る際には、腰のロープにノミを挟んで潜っていき、他のノミは磯桶、若しくは浮き輪のゴムに落ちないように挟んであります。

「磯桶」は海女桶とも呼ばれ、直径は50センチほどあります。獲物やノミを入れる他に、海面で一息入れる際に浮き輪代わりにして休息するためにも使われます。日本手ぬぐいも海女さんの必須アイテムですが、磯めがねのゴムが直接顔に当たらないように巻いて利用します。この日本手ぬぐいにはセーマン、ドーマンと呼ばれる魔除けの印を縫いつけたり、書いたりしてあります。書くのにも特徴があり、今はペンで手軽に書きますが、昔はニシ貝という貝の腸をすりつぶし、それを爪楊枝のようなもの等を利用して書いたそうです。



また、海女が身につける磯着も一度は見たことがあるでしょう。海女の制服みたいなものですが、ウエットスーツの上に白木綿の薄いシャツのようなものを着て、日本手ぬぐいを巻いて磯メガネをつけます。ウエットスーツは昭和37、8年頃に着用が始まりました。それ以前は、白い木綿のスカートとブラウスのような磯着を着用していました。夏になると海水の温度も表面は30度近くになって暖かいです、深くなると

くにつれ海水温は下がっていきます。海女が活動する10メートル前後の海水温はかなり冷たくなっており、それが海女の体力を奪い、真夏でも海女小屋で火を焚いて暖を取る要因になっています。このウエットスーツや足ひれの登場によって、海女はより深く、より長い時間潜れるようになり、作業効率は大幅に改善されました。

